

全員協議会（令和6年6月12日）

会議の名称 全員協議会
開催場所 議事堂2階203会議室
開議年月日時 令和6年6月12日 午後2時00分
散会年月日時 令和6年6月12日 午後3時28分
会議の目的 副知事の選任について

出席議員

議長 須藤 和臣	副議長 金井 康夫	議員 久保田順一郎	議員 星野 寛
議員 狩野 浩志	議員 橋爪 洋介	議員 星名 建市	議員 井田 泉
議員 水野 俊雄	議員 後藤 克己	議員 あべともよ	議員 井下 泰伸
議員 酒井 宏明	議員 金子 渡	議員 安孫子 哲	議員 薬丸 潔
議員 伊藤 清	議員 大和 勲	議員 川野辺達也	議員 本郷 高明
議員 穂積 昌信	議員 井田 泰彦	議員 加賀谷富士子	議員 松本 基志
議員 斉藤 優	議員 大林 裕子	議員 森 昌彦	議員 入内島道隆
議員 矢野 英司	議員 高井俊一郎	議員 相沢 崇文	議員 金沢 充隆
議員 亀山 貴史	議員 秋山健太郎	議員 牛木 義	議員 追川 徳信
議員 鈴木 敦子	議員 栗野 好映	議員 須永 聡	議員 鈴木 数成
議員 宮崎 岳志	議員 丹羽あゆみ	議員 松本 隆志	議員 今井 俊哉
議員 大沢 綾子	議員 水野 喜徳	議員 清水 大樹	議員 中島 豪

欠席議員 なし

執行部等出席者

知事 山本 一太 副知事 津久井治男 総務部長 下山 正
秘書課長 片貝 和晶 人事課長 高橋 淳 財政課長 関根 則子
傍聴人 5人

◎開会

●浦部議会事務局長

ただいまから、全員協議会を開会いたします。
須藤議長より、ごあいさつ申し上げます。

◎議長あいさつ

○須藤議長

副知事の選任につきましては、知事より、かねてから議案提出の意向が示されているところであり、これまで調整が図られてまいりました。

この度、改めて知事から全議員に直接説明をいただく場として、全員協議会を招集させていただきました。

本日は、知事からの説明の後、質疑を行っていただきますので、御承知おき願います。

また、本日の協議状況について、議会広報及び報道機関から撮影の申し出があり、これを許可しましたので、御承知おき願います。

●浦部議会事務局長

それではこれより、内規に基づきまして、議長が座長として議事を運営して参りますので、よろし

くお願いいたします。

◎議 題

○須藤議長

それでは、早速議題に入ります。

副知事の選任につきまして、知事より説明をお願いします。

あいさつがあれば、立っていただいて、説明は座っていただければと思います。

●山本知事

本日は、須藤議長、それから県議の皆さんの御了解をいただいて、こうしてオープンな場で、全員協議会という形で、副知事の再任についての、知事の意見、私の思いを説明させていただく機会を頂戴しました。

まずこのことを、議長並びに県議の皆さんに御礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

これは同意人事ということで、もちろん県議の皆さんに再度御判断をしていただくことですが、私も、私としては、せっかくいただいた機会ですので、私がなぜ宇留賀さんの再任を皆さんにお願いしているのかについて、私の思いをできるだけ正直に、そして真摯に、皆さんにお伝えできればと思いますので、よろしくお願いいたします。

ここからは、議長の言葉に甘えて座ってお話をさせていただくことをお許しいただきたいと思いません。

冒頭まず、この副知事の再任の問題、なぜ私が経済産業省を退職した宇留賀さんを再任したいと思っているのか、県議会の皆さんにお願いしたいと思っているのか、その理由を説明する前に、まずいくつか県民の皆さんにお詫びをしなければいけないことがあると思っています。

そもそもこの問題は、ここまで大きな、ある意味騒動になってしまったこの原因を、よくよく振り返ってみると、やはり知事である私の責任が大きいと自覚をしています。

そもそも、やはり知事として5年間務めていく中で、特に県議会に対して、私自身の中に、おごりとか慢心があったと、非常に甘い見方をしていると、これはもう否定できないことでして、この点は真摯に反省をしたいと思っています。

特に、最大会派の自民党の皆さんに対しては、私自身が長く自民党の国会議員を務めていたということもあり、さらには昨年8月に経済産業省から派遣された宇留賀さんの同意について、ほとんどの皆さんに賛成をしていただいているということもあり、また私自身が自民党について言うと、すべての今いる県議の皆さんを、初当選のときから存じ上げているということで、気心が知れているという、非常に甘い考えもあったということで、これもすべて私の認識というか見方が甘かったと、やはりここから来ていることだと思っていますし、それでもう1回申し上げますが、反省をしています。

ここまで5年間知事を務めてきて、20年以上国会議員をやってきて、実は、特に自民党の県議の皆さんの中には、長年の友人と思っている人たちもいるわけなのですけれども、そこはいわゆる個人的な感情と、皆さんが県議としてこの二元民主制の中で、ある意味知事と健全にせめぎ合いながら県政をつくってきていると。その役割分担に対する思いというのは、個人的な感情とはまた別のものだと、やはりこういう認識が足りなかったと感じています。

それからもうちょっと言うと、これは自民党だけではなくて複数の会派の皆さんからもお話をいただいたのですけれども、やはり副知事2人のうち1人は、省庁からの派遣でなければいけないと、これは大澤県政の12年からずっとそうだったわけであって、やはり2人の副知事が、両方とも霞が関との関係がない人が来てしまうと、政府とのパイプが弱まってしまわないかと、皆さんが心配されて

いることについては、私自身はそういう心配はないと申し上げてきましたけれども、県民の皆さんの立場から見れば、やはりそういう心配をされる方がいるのは当然だと今感じています。

そしてもっと言うと、これも国会議員のときの認識が抜けていないというところもあるのかもしれないのですが、国会は結構スピーディーというか乱暴で、例えば、本当にタイムリーに必要な法律があるときは数か月で議員立法で通してしまうようなところなのです。議院内閣制の今の日本の地方政治の現状というのは、そういう感覚だったのですけれども、やはり群馬県の県議会をこの間ずっと見てくると、実は地方政治はもっとずっと丁寧に手続きを踏んでいると。例えば1つの条例をつくるのに、1年間かけてじっくり準備をしてヒアリングをして進めてきていると。やはりこういう感覚があるということにも思いがいたらなかったということで、やはり唐突な感を皆さんに与えたとしたら、2か月3か月あれば十分ではないかというような、ちょっと私の中に誤った感覚があったのですけれども、そこが皆さんに唐突な感覚を与えていたとしたら、そこは率直にお詫びを申し上げたいと思います。

そもそも、去年の8月に同意人事を皆さんに認めていただいて、普通だったら4年間ということなのですけれども、経済産業省の現状からいって、この4年間ずっと宇留賀さんを派遣し続けるというのは難しかったということで、その後いろいろ状況の変化があったとはいえ、その段階でまたよく話し合っておくべきだったと、今思えばそういう点についての反省もあることは皆さんにお伝えしたいと思います。

それからもう1つ、自民党以外の会派の皆さんにも、改めて私の方からここでお詫びをしたいと思っています。

これは皆さんにも正直に申し上げると、群馬県議会は、自民党が7割以上の議席を持っている最大会派ということで、何か物事を進めるときにはどうしても、やはり最大会派から交渉をして、何とかここを説得するという流れになってしまうところがあるのですけれども、やはりここが国会議員時代の認識のずれのようなものがあって、やはり議院内閣制で与党と野党を分ける感覚の国会と、それから二元民主制でそれぞれ皆選挙で選ばれているこの県議会、これは明らかに違うということで、一人ひとりの県議の皆さんの考えをもっと大事にしなければいけないということが、やはり地方自治だということもあります。

私の見方がとても甘くて、先ほど申し上げたとおり、結構すんなり認めていただけるのではないかという甘い考えがあったために、特に自民党以外の会派の皆さんは、長い間蚊帳の外に置いてしまったような状況になってしまったことについても、恐らく不愉快に思っている県議の皆さんもいると思うので、その点もあわせてお詫びをしたいと思っています。

今回、大変良い機会だったので、今後は自民党、それから中央で連立を組んでいる、いわゆる友党の公明党だけではなくて、その他の会派の皆さんとのいろいろなコミュニケーション、連携を、より大事にしていきたいと思っています。このことを契機に、やはりそれぞれの会派と、例えば定例の懇談をもつとか、何か特に要望があるときには、それをしっかりと受け取れるような仕組みをつくるとか、既に具体的な提案をさせていただいた会派もあるけれども、そこは十二分にこれまでのことを反省して、具体的に改善させていただきたいと思いますし、私の国会議員時代の議員内閣制のもとの感覚というものも、今回いろいろ皆さんから御指摘をされたので、しっかり直していければと感じています。

そこで、ここから、なぜ私が県議会の皆さんに、経済産業省を退任した宇留賀さんをもう一度副知事として再任したいと、皆さんにお願いしているのかということを少し御説明させていただきたいと思います。

まず第1に、これは皆さんもある程度御理解をいただいていると思いますが、この5年間、宇留賀さんが津久井副知事とまた違う形で、大変大きく県政に貢献してもらったと。

特に、企業誘致をはじめとする、数々の群馬県にとって画期的なプロジェクトの実現について、知事である私をしっかりと補佐して、本当に24時間粉骨砕身群馬県のために頑張ってくれたということが

あります。

そして、昨日改めて考えてみたのですけれども、今までの副知事は2年で帰っていたと。短い人は1年だったと。宇留賀さんは、もう5年近くになるということで、やはり5年も長く仕事をしていると、いろいろな通常のプロジェクトにも関わっている期間もあるということで、なかなか急にいなくなられてしまうと、私の感覚だけなのかもしれませんが、やはり今まで群馬県にとって非常に大事なプロジェクトを進めてきて、ようやく道筋がつくという途中で、非常に大きな戦力を失ってしまうことになりますので、その点について、是非皆さんにも御理解をいただけないかと思っています。

例えば、ずっと宇留賀さんと中島前企業管理者に、東電と交渉していただいて、ここは経済産業省のいろいろな連携等々も使いましたが、ようやく群馬県はPPAモデルというものをつくって、これは御存じのとおり、これから群馬県の水力発電でつくった水力は、群馬県が売り先を決めるという仕組みをつくり、これも企業誘致の大きな力になっているのですけれども、実は競争入札にした部分も含めて、3年後か4年後からは毎年30億円ぐらいの新たなレベニューを稼げるようになる。これをできれば、今一生懸命そのグランドデザインをつくっているのです、よく県議会の皆さんにも御了解をいただきながら進めなければいけないと思いますが、林業の再生にもっていきたいような話があり、これはまだグランドデザインが確実にできていない状況で、ようやく東電との交渉もまとめてこうなったのですけれども、まだまだ油断できないということがあります。

それから、井下幹事長のお顔が見えたのですけれども、先般、伊勢崎にスーパー企業といえる時価総額12兆円の信越化学が56年ぶりに国内投資をするということで、そこに伊勢崎への投資を決めていただいたということです。これは830億円だったでしょうか。これは齋藤社長とのトップセールスで、私が一応取ってきたのですけれども、やはりここに至るまでは、実際宇留賀さんの人脈をかなり使ってもらって、宇留賀さんと中島前企業管理者に相当丁寧な交渉をしていただいて、ようやく伊勢崎にもってこれたと。なおかつ、実は第2第3とやりたいと、齋藤社長が言われている中で、大体もうこの1年ぐらいが本当の勝負で、是非更なるこの投資を呼び込みたい。こういうことについても、是非また宇留賀さんに手伝ってもらいたいと思っています。

それから、きりはないのですけれども、前橋の赤城公園の開発というのが、今までなかなかできなかったところを、スノーピークに入ってもらって、ようやく民間との連携を使って開発ができる、事業として展開できるというところまで参りました。実はここにも深く関わってもらっています。

さらには、高崎市の県議の方もいますけれども、高崎市が抱えている堤ヶ岡飛行場跡地の大構想にも深く関わってもらっているので、皆さん御存じだと思いますが、富岡市長が会見で言われた、是非残って欲しいと、宇留賀さんがいなくなると5年10年遅れてしまうというのは、これは市長の本音だと思います。

最後にしますが、県議会の皆さんに予算を承認いただいて、TUMOというアルメニア発祥のデジタル機関を誘致します。再来週に契約を結んで、来年には実は第1号のTUMOがやってくると。ここもこれから詰めなければいけないということ等々があり、それも宇留賀さんに、かなり私の代わりに飛び回ってもらっているところがあると。

最後にしますけれども、今この群馬県議会の発祥の運動と言われている、温泉文化をユネスコ無形文化遺産に登録する運動でも、御存じのとおり骨太の方針に、とにかく思い切った表現を入れようとやっているのですけれども、最初に出てきた原案が全く不十分なので、普通だったらもう、すぐに宇留賀さんを議員連盟の牧島かれんさんのところに送っているのですけれども、私はなかなか行けないものですからそれもできないので、結構日々いろいろなことで、もうてんでこ舞いになっているということがあります。

そして、私としては、もうちょっと長くいて欲しいという気持ちは大変あるのですけれども、何度か皆さんとお話をする中で、1年ごとに見てもらえないだろうか。

例えば4年間、同意人事を了解していただいたときは、普通は4年なのですからけれども、それを例えば1年ごとに見ていただけないかのような話も考えていたのですけれども、1年ごとに県議会で決めてもらうというやり方で、1年経ってチャンスを与えていただけないかと思ったのですが、しかし報道等も拝見していると、やはり1年ごとに、またこういう問題が蒸し返されるというのは、非常に県議会にとっても良くないのではないかとということで、心配しているという報道もありましたし、そういう声も届いていますので、いろいろ考えた結果、1年に区切って、もう1年で結構です、1年という任期で宇留賀さんの再任を何とか認めていただけないでしょうか。認めていただいたら、1年経った時点で、そこでもう任期が切れるという形でも、宇留賀さんには何とか残っていただけないかというのが、私の率直な気持ちです。

この1年の間に、いろいろ皆さんが心配されている、いわゆる中央政府からの副知事も、とにかく良い人を見つけられるように努力します。良い人を見つけるためには半年1年かかると思うのですけれども、その中で最大限の努力をして、宇留賀さんを認めていただければですけれども、1年後からも、しっかりとした副知事に来ていただけるように、早速探していきたいと思っています。その点、是非皆さんに御理解をいただいて、もう一回言いますが、1年の任期で、なおかつその間一生懸命、次の政府からの副知事も探させていただくということで、是非この再任を認めていただければと思います。

それから最後に申し上げますと、これは理屈というよりも、私の感情の問題ではあるのですが、やはり宇留賀さんに対する信義というものもあります。彼が経済産業省にも戻れるという選択肢がある中で、また他にもいろんな他の選択肢があったのかもしれませんが、群馬県に残って、群馬県のために働きたいと、言っていたと。その宇留賀さんは今、人生で初めて失業しており、彼は基本的に前向きな人なので、明るく言っていますけれど、毎日奥様からあなた失業しているでしょう、というふうに責められているようで、笑っているのですが、この5年間知事のもつて、ここまで頑張ってくれた宇留賀さんを、かなり長い間精神的に不安定な立場に追い込んでいるということについても、私としては大変立つ瀬がない思いで、義理人情を重んじる上州人としても、ここは是非知事の顔を立てていただいて、何とかこの1年という形で再任していただけないかと思っています。やはり放り出すような形で辞めていただくということは、宇留賀さんの将来にも良くないと思っていますので、伏してそのことを皆さんにお願いをしたいと思っています。

ちょっと長くなりましたが、あとは皆さんからのいろいろな御質問にお答えする形で、私の気持ちをお話させていただければと思います。

○須藤議長

以上で知事からの説明は終了いたしました。

◎質 疑

○須藤議長

これより質疑に入ります。質疑は一問一答方式で行いたいと思います。質疑者及び答弁者におかれましては、簡潔明瞭をお願いします。質疑のある方は挙手をいただき、その後、指名させていただきますので、発言をお願いいたします。

○井下議員（自由民主党）

今回、知事の申出により、このような機会が設けられて、群馬県議会の全ての会派の議員の出席を得て、このような形で一般の県民並びにマスコミの皆さんにも、広く開かれた協議会ということに、開催いただいた須藤議長、ありがとうございます。

一問一答形式ということですが、どうしてこの問題が起きたかという話も含めてちょっとよ

ろしいでしょうか。

連日のマスコミ報道により、副知事問題の県民の関心も徐々に高まっていると感じています。

また一方で、この問題の中身がよくわからない、という声も多く聞かれますので、今回この機会が県民に向けて、この問題を理解していただく一助となればと思いますし、我々議会も助けとしたいと思っていますので、知事が既にお取りになった対応と、質問が重複する部分もありますけれども、お許しいただきたい。

まず、経緯をちょっとお話させていただきます。

この話は本年の3月中旬、自民党県連の当時の執行部が、1週間後に高崎で開催される自民党県連所属の国会議員と県議会議員の合同の会議の打合せのために、上京したところから始まりました。

宇留賀氏が経済産業省を退職するという情報が、唐突に私たちの耳に入りました。

それほど重要な案件でもありましたので、当然知事から事前のお話があるものと思いましたが、にわかにはその話を信じられなかったというのが、正直な感想であります。

それでも年度末でもあり、知事も公務に追われて忙しいのだろうということで、我々への連絡が遅くなっているのかと解釈して、知事からの連絡を待つことにしましたけれども、3月最終週まで知事からの連絡がなかったことから、もう人事異動まであと1週間というところになりましたので、私が知事にその件に関する確認の連絡を取らせていただいたのが事の始まりとなりました。

あれから3か月、私たちはこの件に対する対応に追われまして、昼夜問わず、振り回されてきたという感じしております。

まず質問なのですけれども、何故宇留賀氏は経済産業省をお辞めになったのか、このことについてお尋ねします。

●山本知事

まず、今、井下幹事長がおっしゃった経緯について言うと、3月下旬に井下幹事長はじめ執行部の皆さんが知事室まで来て質問されたと。

まず、こういう大事な情報が事前に漏れたということについては、本当にお詫びをしなければいけない。

いずれにせよ、まず、県議会に先に伝えなければいけない情報が、外部に漏れてしまったことについては、心からお詫びを申し上げたいと思います。

まず、そこをお詫びした上で、特に言い訳をするつもりはないのですけれども、どういうふうに関係をいろいろと探ってもらったために、いろいろまわってもらっていたりしていたものから、ちょっとまだ時期尚早ということがあり、何度かいつ県議に話すかということは、我々の中でもあったのですけれども、もうちょっと大きな流れができてからということで、連絡はずっと遅れてしまったということです。

その背景には、先ほど申し上げましたが、去年の8月に一度再任をしていただいているので、経済産業省からの、例えばひもが切れたとしても、OBだし、すんなりと認めてもらえるのではないかと、まさに甘い見方がありました。

副知事人事というものは、井下議員が言われたように、県議会にとっては大変な一大事、特に議決権といいますか、同意人事を決めるのは議会なので、これがものすごく大きなことだという、ちょっと認識が足りなかったと、その点をまずお詫びしたいと思います。

これもお話をしたのですけれども、宇留賀さんは異例の長さでずっと群馬県に来ていただいていた。その中で、大体3年ほど超えた頃から、経済産業省としてもいつ戻ってくるのだろうという感じだったので、大変な活躍をしていただいているということと、知事がやはり宇留賀さんを頼りにしているということが、経済産業省にも伝わっていて、私も国会議員を長くやっていたので、歴代

の大臣ももちろんよく存じ上げていたので、そういう意味で言うと、群馬県に気を遣ってもうちょっと貸してあげてもいいか、みたいな雰囲気になったのだと思うのですけれど。それが4年を過ぎるということになって、経済産業省としては、やっぱりそろそろ帰ってきてもらわなければ困るという話をいただいて、宇留賀さんからも、さすがにもうそろそろ帰らなければいけないということだったので、これも井下議員に話しましたが、宇留賀さん連れて経済産業省に行って、個人的にも非常に親しい当時の西村大臣に会って、宇留賀さんはずっと活躍してくれていたのだけれど、もうさすがに難しいということ伺っています。それは残念ですけど分かりましたと。その代わりに、後任も経済産業省から是非探りたいと。なので、是非良い人を探して欲しいと、西村大臣にお願いしました。

その時宇留賀さんも一緒に来てもらったので、西村大臣が、宇留賀君、君の後任なのだから、君もちゃんと一生懸命探せということだったので、その時点では、もちろん宇留賀さんにはずっといて欲しかったのですけれど、そもそも未来永劫いてもらうわけにはいかないの、これはやむを得ないかと思っていました。

年が明けて、ずっとその人事のこともバタバタしているうちに、経済産業省が探してくれるのだろうと思っていたのですけれども、1月か2月だったか、宇留賀さんから、いろいろ後任を探したけれどなかなか適切な方がいないということ。それとやはりこの5年間、自分でいろいろなこれからの人生の選択肢を考えたときに、群馬県で5年間やってきて、本当にこの5年間の仕事はやりがいがあったと。やはり知事と一緒に群馬県から、地方から中央を変えるということは、本当に人生をかけるのにふさわしいミッションだと思うので、もし知事が望むのであれば、あと何年かでも、もう少し群馬県でやらせていただけるのであれば、そちらの方を選びたいと、こういう話がありました。

その時に2人で考えたのは、とにかく経済産業省を辞めるにしても、経済産業省との関係を悪化させないようにしなくてはいけないので、そういう流れの中で、宇留賀さんもずっと経済産業省の担当部とか人事のところをいろいろまわって、どのようなやり方で離れるのがいいのか。連絡が遅れてしまったのですけれども、どのようなやり方が一番、県議会の理解を得られるのかということ、ずっと議論をして、あのような形になってしまったということです。

何故辞めたのかということ、宇留賀さん御自身の選択で、経済産業省を辞めても、やはり群馬県のために知事と一緒にしっかり、ここでせつかく良い話も出てきたので、これをやりたいという思いがあったからだと思います。

○井下議員

当初、経済産業省をお辞めになる理由として、御実家のわさび農家をお継ぎになることが理由だったと聞いておりました。その辺りがちょっと違うかと思っています。

知事も宇留賀氏の後任者を探していたということで、それは分かりました。

また、宇留賀氏御自身で探した中で、適任者がなかなかいない、というお話があったと。それは大体いつごろの話なのでしょうか。

●山本知事

それは多分、今年の1月か2月だったと思います。

それからわさび農家の話は、やはりちゃんと井下議員に腹を割って話せばよかったと思うのですけれども、まず宇留賀さんの実家はわさび農家で、やはり、いつかそのわさび農家に戻って、事業をやりたいという思いは、自分の中にあったということだったので、経済産業省といろいろと話をする中で、経済産業省も宇留賀さんを手放すときに、群馬県知事のところに行くから手放すというストーリーがなかなかつくりにくいと。

しかしながら、宇留賀さんがわさび農家を継ぐというのは嘘ではないし、おそらく向こうは、それをしっかりとしたメインの理由で、辞めることを許してくれたのだろうと思います。

同時に、やはり経済産業省は、そういう理由でまわりへの説明などを考えると、知事のところに行

くから、とはなかなか言えないということなので、そういう理由は嘘ではなく、将来はそうなのだろうということで、宇留賀さんを円満に退職させたと。

ただ同時に、その宇留賀さんを、やはり群馬県知事がすぐに副知事として再任したいという意向は十分分かった上で、経済産業省として少しそこの理屈については上手く仕分けていただいたということだと思います。

年末ぐらいに、宇留賀さんが何となく迷っているような話が人から伝わってきたのですけれども、宇留賀さんが本当かなと思ったのですけれど、知事室に来て正式に私に言ったのは1月か2月だと思います。

○井下議員

分かりました。知事のいろいろの御発言に関しては、これから我々も判断しなくてはいけないので、その一助にさせていただきたいと思います。

続いて、3月中旬にその情報を我々の方になかなか言っただけでなく、最終週に我々の方からお伺いさせていただきましたけれども、これが万が一ですね、我々議会に知らされないまま年度を跨いで、もう既に宇留賀氏は経済産業省を辞めると言っていました、宇留賀氏がそのまま副知事を続けることになると、宇留賀氏の退職金については法律で決まっております、経済産業省在職の16年間の分も合わせて、加えて副知事の数年間も群馬県が支払わなくてはならない、ということになっていたわけですが、そのことに対する対応等について伺います。

●山本知事

これも大変申し訳なかったのですけれども、井下議員のお話しでは、年度末ということがあったのですけれども、我々としては、それもちゃんともっと早く全体をお伝えできればよかったのですが、一応宇留賀さんには年度末でなくてもいいという感触を得ていた、経済産業省の方は年度末にはこだわりません、もうちょっと先でもいいということだったので、だからこの年度もぎりぎりになってしまったら、そのまま行くみたいな感覚はありませんでした。

それから、どのみちどのような形で残るにしても、議会に言わないということはありません、それは例えば議会に言わないでそのまま残そうということ自体は、100%考えていませんでしたから。そういうことは一切あり得なかったということです。

それから、議決についていろいろな選択肢を考える中で、井下議員が言われたような、例えば議決をやらなくて延ばすとすると、群馬県が退職金を払えばそのまま残れるという選択肢はもちろんあるという話はしましたけれど、それは津久井副知事が絶対無理だということで、やはりこれは1回辞めてもらって、議決をしてもらわなくてはならない。

そもそも、そうしたらその予算を県議会で議論していかなくてはならないので、それも経済産業省にしっかり理解してもらって、経済産業省を辞めて、経済産業省の方で退職金を出すということでした。

とにかくいずれにせよ、どんな形であっても、続投してもらうためには、議会の議決を得ようということは決めて、それも臨時会ではなく、最初に申し上げましたけれど、やはりまだ2か月あるから、5月の議会で、それまで1か月で少し根回しをしてやってもらおうということで我々は考えていました。

ただ、それも井下議員が言われたように、私の感覚だと2か月あると思ったのですけれども、やはり今までの県議会の丁寧なやり方を見れば唐突感があったということで、この点は申し訳なかったと思っています。

○井下議員

分かりました。この後の話ですが、宇留賀氏は経済産業省を退職されて、個人で副知事になられるという提案をされるわけですが、国との直接のつながりが切れた宇留賀氏に、果たしてこれまでの経済産業省の宇留賀氏としての仕事を、同様にできるのでしょうか。

●山本知事

それは全く問題ないと思っています。

これは私の考えであって、井下議員はじめ県議の皆さんが違う感覚を持っているということは分かりますけれども、私が知事である限りは、政府とのパイプが細くなることはないと思っています。

それから、そもそも宇留賀さんは辞めても、経済産業省OBで、とっても可愛がられているので、今でも経済産業省の中で、宇留賀さんがどうなるかということが非常に話題になっていて、いろいろな人たちが、局長クラスとか人事課長とかが、本当に心配して電話してきているので、ですからその宇留賀さんが経済産業省を辞めたから、例えば経済産業省とのパイプが細くなるということは、私はないと思います。これは我々の見方ですけれども、そのようなことはないと思っていますし、それと、トップのところは依然として齋藤大臣で、私もつながっていますので、私は次の副知事を探す間のこの1年間、宇留賀さんが経済産業省を辞めたから経済産業省とのパイプが減るとか、そもそも経済産業省以外のところは私の人脈でつないでいるので、それが非常に弱くなるということは、私の見方では、ないと思います。

○井下議員

これからちょっと確認の質問をさせていただきます。

今回人事案件として、宇留賀氏を副知事として同意していただきたいということで出てきていますけれど、どうしても副知事ポストでなくては駄目なのでしょうか。

●山本知事

それは先ほど皆さんに御説明したように、宇留賀さんに1年間いてもらいたいのは、これまでやってきた、ようやく始まった、いろいろな大事なプロジェクトをしっかり道筋をつけてもらうためであって、やはり副知事というしっかりとした基盤があるからこそできる。それは県庁内の調整もそうですし、副知事という権限があるからこそ、例えばいろいろな特区に私の代理として出席できるということなので、やはりその1年間副知事として、やはり残っていただくということが、もう1回言いますけれど、今やっているいろいろなプロジェクトの道筋をつけるためには不可欠だと思っています。

それから、副知事として5年間必死でやってくれた宇留賀さんなので、そこを外して、アドバイザーみたいなポストで、また24時間汗をかいてくれというのは、なかなか心情的に言えないということも私の中にはあります。

○井下議員

分かりました。

また確認の質問です。先ほど御挨拶の中でも、知事が触れていましたけれど、最近の報道を見ますと、1年ごとに議会に諮るとの表現がされていましたけれども、これは1年限りで副知事を退職していただくとの理解でよろしいでしょうか。

●山本知事

1年という任期を区切って、チャンスを与えてほしいとか、いろいろなことを思っていました、やっぱりこれまでのことを振り返ったり、あるいは井下議員といろいろな御発言、御意見を聞く中で、1年で任期が終わると。これはどうやって担保するのかという話もあると思うのですが、まず私は約束を破りませんので、ここは長い付き合いだから信じていただきたいのですが、担保が必要であれば、例えばしっかりと協定を結んで、今回再任していただく条件として、任期は1年間というふうにさせていただいても全く構いません。

あと、もし例えば定例会の最終日に再任していただいたら、任期1年ということになると、6月の中旬頃になると思うのですが、大体7月が政府の人事の時期なので、万が一、1年で認めていただければ7月が良いと思いますけれど、そこは議会がもうびったり1年でということであれば、しっかりとその協定の中でここまで辞めると。その間、副知事をしっかりと探すと、ちゃんと覚書を結んでもいいと、私は思っています。

○井下議員

この1年限りということで、宇留賀氏にひいていただくということですが、このことに関しては宇留賀氏本人が同意をしたということですのでよろしいでしょうか。

●山本知事

それは、よくこれまでのいろいろな経緯も含めて話しました。

宇留賀さん自身は、いろいろ皆さんに御迷惑もかけて、井下議員はじめ、いろいろなところにまわりたいという中で、私がやめるように言いました。これはやはり、まな板の上の鯉がそういうことをやってはいけないので、宇留賀さん自身がいろいろな方に御迷惑をかけてお詫びしたりとか、いろいろ説明したいというのを、私の方でこれは知事の案件なのだからそれはやめるように言っていますけれども、このことについてはよく相談して、今言ったような条件でも、再任を認めていただけるのであれば、この間1年間は群馬県のために本当に一生懸命やらせていただきますと言っています。

○井下議員

どうしても1年間で辞めるという話になりますと、法律の問題が出てきます。地方自治法では、これは結構重い法律で、4年間の任期が保障されています。

1年で区切ると言っていますが、私たちが調べたところ、地方自治法第163条では、副知事の任期は4年とされており、例え議会の同意を得たとしても、任期を1年に短縮することは地方自治法上、難しいということです。

その上で、法律に諮ると難しい、この任期を1年に区切るという知事の提案は、議会との信義もありますし、県民との今後のことですから約束ということもあるでしょうが、協定等々の話がありますけれども、実際に地方自治法とその協定とが相反した場合は、地方自治法の方が強いのです。

ですから、この部分をどういうふう担保するかという、非常に重要な問題で、もし仮にそれを出すとすれば、副知事の退職届のようなものを、既にもう預かっていただくとか、そういうようなことを担保として出していただくということなのでしょうけれども、その辺りはどうお考えでしょうか。

●山本知事

井下議員が言われたとおりなのですが、自分の意思で辞めるということについては、もう全く問題ないと思うのです。

ですので、今言ったような、ここでテレビカメラの前で発言をし、会見で、なおかつ、協定を結んでも、さらにやはり懸念が残るといえるのであれば、退職願をとって最初からつけるという、皆さんが納得するような担保については、当然同意させていただきたいと思います。

○井下議員

仮に、1年後に宇留賀氏が副知事を退任しました。その後、県庁の何かしらの役職とか、あるいは知事の相談役として、県庁の業務や県庁職員に関わる可能性はあるのでしょうか。

●山本知事

それは現時点ではなかなか分かりませんが、おそらくないと思います。

なぜなら、先ほど申し上げたとおり、やはり宇留賀さんが副知事として1年残ってもらうことに意味があるのであって、例えば他のポストで残るといえることは、もちろんできないと思いますし、そのこともまず大きな矛盾があるのと、あと恐らく宇留賀さんの第2、第3の人生、多分いろいろな可能性もあると思うので、恐らくその後も何か中途半端な形でということはないと思います。

ただ100%かという世の中分らないですけど、私はほぼないと思います。

○井下議員

次に、1年の任期の話です。

通常、我々の関係では3月31日というのが、1つの大きな節目だと思います。あるいは、これから1年ということになると、6月の議会の閉会日以降で1年ということです。

先ほど知事の方から話のあった中央省庁の関係が7月という話ですが、我々の関係では3月31日なのかと思っていますが、その辺りはどうお考えでしょうか。

●山本知事

1年はやはり1年なので、それはむしろ県議会の方の考え方ですけれども、同意をしていただいた日から1年ということではないかと思えます。同意をしていただいた日から1年というものが、例えば6月17日であるならば、それから1年後と。

それはあくまで私の希望として言ったことなので、それと次の副知事を連れてくるつもりなので、そうすると7月が一番交代としていいのかと思ったのですけれども、そこは県議会の方で、例えば1年ぴったりにしようというのであれば、それで結構です。

年度末ということになると、やはり何か月も縮まってしまうので、そこは是非、何度も言いますが、1年としたのには理由があるので、6月頃に赤城ウェルグラウンドもオープンしますし、TUMOセンターもオープンしますし、フラワーパークもそうですし、いろいろなことが大体1年後なのです。だからそこまでの1年というのは、いろいろな根拠があつての1年で、もし7月ということが無理なのであれば、ぴったり1年ということをお願いできれば、大変有り難いと思えます。

○井下議員

ありがとうございます。

私の会派からは最後の質問になります。今回の騒動にあたって、知事からは再三お詫び等々がありましたけれども、知事のブログが議会との関係性をちょっと悪くして、コミュニケーションを阻害したといった声が多く上がっています。我々も、降って湧いたようなこの案件に関して、3か月かなり大変な思いをしながら接してきたということで、この騒動の原因はどこにあるとお考えでしょうか。

●山本知事

先ほど申し上げたとおり、この騒動の最大の原因は、私のおごり、甘え、見方が基本的には非常に甘かったということだと思います。

ブログに関しては、これも大変反省しています。

1つ申し上げますと、ブログを書いたのは、実は6、7割が宇留賀さんのためで、このまま万が一放り出されるようなことになって、宇留賀さんが群馬県でどのような仕事をしていたのか、あまり仕事しなかったのではないかと思われたら、これはもう私としては信義に反すると思ったので、かなり細かく、こういうこんなに良い仕事をやってくれたと。知事がここまで副知事の仕事を書く、発信することは、普通は材料がないので、ないと思うのですけれども、正直に言うと、これは宇留賀さんのために、絶対に書き残さなくてはならないと思ったと。

その中で、私の方に問題があるのですけれども、井下議員もそうですし、県議会との話がなかなか進まない中で、なにしろ必死だったので、つつい言葉も過激になって、視聴数も今非常に高いので、その点で県議の皆さんに不愉快な思いをさせていたとしたら、その点は率直にお詫びを申し上げたいと思えます。私の部分も、井下さんが言われたように原因の一つだと、その点は反省しています。

○金子議員（つる舞う）

このような機会をいただきまして、須藤議長には大変感謝しております。

まず知事からも説明があり、井下議員から質問がありましたけれども、改めて確認をさせていただきたいと思えます。

地方議会は二代表制であります。知事は国会の経験が長いので、二代表制の認識が私たちの会派とは違うと感じることが多くあります。宇留賀さんも国の仕事をしていたためか、知事と同じで、私たちとは認識が違っていると感じています。

今回は、知事のこの認識の違いが原因の1つになっていると思えます。議会への説明不足、事後報

告。唐突感を感じる事が多くありました。

今回の騒動を踏まえて、改めてこれからどのように二元代表制の県議会と向き合っていくのか、知事の考えを伺います。

●山本知事

冒頭申し上げたとおり、金子議員が言われたように、二元代表制についての認識がやはり不足していたということは、もう認めざるを得ないと反省をしています。

やはり20何年間国会議員をやってきたので、何となく与党と野党みたいな感覚がすごく強かったのですけれども、まさに今、県議が言われたような二元代表制の中で、しかも振り返ってみると、もう先ほど申し上げましたが、私がこの5年間出した議案には、自民党以外の会派、ほとんどの会派の皆さんに、すべて賛成していただいていると。特にコロナ禍ということもあって全会一致というものもあります。そういうことを考えても、やはり先ほど申し上げたとおり、これからちょっと姿勢を改めて、いわゆる二元代表制の中の、知事と県議会の関係というのはよく考えたいと思いますし、先ほど申し上げたとおり、各会派とはもうちょっとコミュニケーションを密にしたいと思いますし、定例の懇談もやらせていただきたいと思いますし、何か要望を受けたりするときも、少しく、気をつなげるパイプみたいなものも考えたいと思いますし、今、金子議員に言っていただいて、やはり十分な事前の相談がないということも多いし、結構事後報告も多くて、どんどん先に行ってしまうみたいな感覚があるとよく叱られているので、そこはしっかり改めたいと思います。

もう一回言いますが、これからはやはり、より知事として、全方位的に、しっかりと各会派の皆さんとコミュニケーションをとる努力を、しっかり行動で示していきたいと思います。

○金子議員

議会と県当局がどこまで事前の打ち合わせをするかということは、事前協議といったものが許されるのかということ、地方政治の課題ではありますけれども、それでもやはり、議会に対して情報公開、またコミュニケーションをしっかりとすることは必要だと思いますので、これからの行動に期待したいと思います。

次に、行政は組織として運営されることが大切であると、私たちの会派は考えております。そのため、知事は方針を示して、副知事の事は組織の意思疎通を図って、コンセンサスを得ながら、政策立案や行政運営にあたる事が大切であると考えております。一方的な指示だけでは、組織は動かない、組織が回らないと思っております。

副知事の仕事のやり方も、その点を十分に踏まえていただく必要があると、私たちは考えておりますけれども、知事の考えを伺います。

●山本知事

今、金子議員からお話があった点も、何人かの方々から御指摘をいただいたのですが、宇留賀さんは非常に若い全国最年少の副知事として経済産業省から来たのですが、議員も御存じのとおり経済産業省はすごく優秀な人たちが集まっている役所で、体育会系的な場所で経済産業省の文化というものがある、みんなが打たれ強いみたいなどころなので、最初に宇留賀さんを副知事に呼ぶときに、3時間ぐらい2人で話をし、その時に宇留賀さんに言ったことがあります。

それは、宇留賀さん、自分も国会議員をやってきて、霞が関の官僚と付き合ってきた。特に経済産業省の役人は、最高学府を出ている人も多し、グローバルな視野もあるし、非常にその能力が高い人がいる。宇留賀さんがこの群馬県に来て県職員を見て、少し霞が関と違うと思うところもあるかもしれないけれど、彼に言ったのは、実は県職員には霞が関の職員にない良いところがいっぱいある。やはりそこに本当に根付いて、地方を愛して頑張っているというところがあり、霞が関の役人と違う良いところがあると。だから宇留賀さんに言ったのは、1つ約束してくれ。やはり県職員を大事にしてくれ。宇留賀さんが分かりましたと。それはちゃんと肝に命じてやりますという話だったので。

そのことは覚えていただいたと思うのですが、やはりコロナ禍で、議員御存じのとおり、毎日緊張していて、ものすごく急いで、いろいろなことをやらなくてはいけなくて、県職員の皆さんに申し訳なかったと。基本的には県で行うことは全部私が決めるので、副知事や部長が暴走するようなことはないのですが、私に責任はあるのですが、やはり経済産業省の文化を少し持ち込んだようなところがあり、やはり一部の職員の皆さんには随分過度の負担を掛けてしまったということはよく存じているので、ここは分かりませんが、もし1年間、1年限りですけれど、再任していただければ、そこはしっかり宇留賀さんに話して、私自身の反省も含めて、スタイルはちゃんと変えてもらおうと。ただそのスタイルを変えてもらいながら、やはり彼の持っている他の人にならぬグローバルな視野とか人脈は、最大限に群馬県のために生かしてもらおう、そういう流れをつくれたら良いと思っています。

○金子議員

グローバルな視野とか打たれ強いとかスピーディーとかを期待するから、中央省庁から副知事に来てもらうということで、その意義はあると思うのです。

ただ、もともと自分がいたからということで、やはりこの群馬県庁の文化に合わせられないということは駄目だと思うのです。

そこはしっかりと知事の方から伝えていただいて、もしこの人事案件が通るのであれば、1年間ということですが、それができないのであれば、我々は半年でも9か月でも、短くてもいいと思っていますので、そこはやはりしっかりと知事の方から指示を出していただきたいと思います。

最後に、もう一度確認をさせていただきます。

副知事の任期を決めて議決することはできません。先ほど山下議員からの質問にもあったようにです。しかし、今回知事は副知事の任期を1年にすると約束をされました。そしてまた、後任を中央省庁に依頼するという事です。

これは、1年後にどのように状況が変わろうが、絶対に約束は守られなくてはならないと、当たり前前のことです。この約束は必ず守られるということで間違いはないか、お答えください。

●山本知事

その前に、最初の質問ですが、金子議員が言われたことはしっかりと頭に置いて、宇留賀さんにも話しますし、この1年、もし認めていただければ、群馬県の文化、やはり職員のいろいろな気持ちを考えたやり方をしてもらおうようにしたいと、はっきり約束させていただきます。

それから、欠点だらけの私の1つ良いところがあるとすると、約束を守ることなので、しっかりと約束をさせていただきますし、これだけのメディア、全部オープンですから、この中で約束をしたことを違えるということはいけませんし、もう一回言いますが、協定でも覚書でも、もちろん議会が必要であるということであれば、しっかりと結ばさせていただきますし、金子議員が今言われた約束はしっかりと守らせていただきたいと思っています。

○後藤議員（リベラル群馬）

簡潔に2点質問させていただきたいのですが、今、知事からお話の中で、ちょっと申し上げたいところがあります。

先程、知事の中で慢心があったとか、また私ども少数会派に対する配慮が足りなかったと言われていすけれども、今日こういった形で全員協議会が開かれていることが、ある意味健全な二元代表制というものはまだ生きていて私は思っており、知事は猪突猛進でやられる方だということは重々承知していますから、御配慮いただくのは有り難いのですが、最大会派の自民党も非常に懐の大きい会派ですし、こういう議会全体に関わるようなテーマが出てきたときには、本当に会派間を超えてしっかり議論できるような県議会にはなっていると思いますので、姿勢がちょっと甘かったとか、そういったことはあまり言われなくても構わないのではないかと私は思っており、それよりも、もう少しやはり本

質的なところをちょっと議論したいと思っております。

今日を迎えられて非常に良かったと思うのは、やはりこの間、報道等が大分先行して行って、とにかく議会が宇留賀さんに対してイエス、ノーなのか、また、妥協案に対してどうなのかとか、非常に矮小化した報道が出て行って、私としては非常に不本意でした。

今回の問題で、少なくとも私自身が非常に危惧していることは、やはり知事が宇留賀さんに、ブログ等も含めて、非常に固執されているということで、それに対して、私ども議会はやはり冷静な目で、今の群馬県、山本県政にとって必要な副知事はどういう人物なのかということ、しっかり議論する必要があると思っていた上に、どうしても目線の違いがあったわけです。

知事は、選択肢は宇留賀さんしかない。私どもは、やはりしっかりと国のパイプもある人物、加えて優秀さとか、そういうこともありますけれども、そのような考えがありますから、やはり退職してしまった人物が、いくらプロジェクトを握っているとかいろいろあったとしても、やはりそういう属人に頼りすぎるような県政運営というのは非常に危うさもあり、やはり安定的に省庁との人事交流の中で、副知事を出していただくことのメリットというのは非常に大きい部分もあり、そして先ほどの答弁の中で、知事も1年間大丈夫ですと。井下議員の質問に対して、省庁辞めても私の人脈で何とかありますという話もしていましたけれども、1年間の中で中央の政治状況が変わることもあり、知事自身が健康を害すとか、いろいろそういうリスクもあるかもしれません。

ですから、知事がスーパーマンのような方だということは私も認めますが、やはり常にそういうリスクも考えて、スタンダードな国との関係、パイプといったものは、これまで以上に意識をしていただきたいということ、もうずっと申し上げてきました。

その意味で今回1年に区切り、そして次は国から探しますというお話も今いただいたわけですが、その省庁との関係、副知事の人物像について、各会派からそのような注文をいただいていると思えますけれども、やはり国との安定した関係を今後は重視していくという考えに変化してきたのかどうかについて、まずお聞かせいただきたい。

●山本知事

今、後藤議員が言われたように、世の中というのは変わっていくので、今ある前提条件を常に頼ってはいけないということは、言われるとおりであります。そういう意味で言うと、確かに誰かが国から来ているというのは、1つの安全面というか、リスクヘッジにはなるのかということ、お話を伺いながら再認識をしています。

それから、宇留賀さんにあまり固執するなど前にも議員に言われたのですが、固執しているというよりは、本当に頑張ってくれたので、今日後藤議員からいただいたことをしっかり受け止めて、もちろん改善すべきところは改善したいと思うのですが、やはり人間って誰にでも評判の良い人っていないので、私は5年間一緒にやってきて、長所も欠点も見たのですが、本当に頑張ってくれたのです。私はやはり自分のために頑張ってくれた人は、みんなとても大事なので、宇留賀さんに固執しているのですが、津久井さんにも固執しているし、私が選んだ部長は、とても途中ではしごを外すようなことはしないと。宇留賀さんに固執しているというよりは、やはりこれは、本当に頑張ってくれた人に対する自分の思いがそこに出ているということは、是非分かっていたきたいと思います。

後藤議員が言われた、システムティックに、県と国の関係がどんなことがあってもある程度つながっておくようにするという感覚は、よく持っておくようにしたいと思います。

この1年間心配だと言われることは、確かに言われるとおりでありますが、今の宇留賀さんのいろいろな動きを見ながら、経済産業省で心配している人の数とか、あとみんなが応援してくれるのを見ると、例えOBになったとしても、議員もそうだと思うのですが、パイプというのは仕事だけではないので、やはり5年10年同じ釜の飯を食って苦労した仲間というのは生涯の友達なので、なるべく影響が出ないようにしますし、なるべく良い人を本気で探していきたいと思っております。

今言われた、もっとシステマティックに冷静に考えるということは、よく御指摘いただいたので、頭に置いておきたいと思います。ありがとうございました。

○後藤議員

それでは、もう1点。また重要な論点ですけれども、今後のことも含めて、適任者をこれから探すと。もちろんこの1年の中でも、やはりもう少し宇留賀さんに対しては、個人的な能力が高いことは重々ブログでも分かりますけれども、県庁職員の皆さんであるとか議会であるとか、やはりそういったところにしっかり目配せできるバランス感覚は、是非持っていただきたいということがありますし、今後においても、やはり私は宇留賀さんの個人的な資質どうこうということではなくて、私もこの組織の中にいた人間ではありますけれども、やはり30代の若さで、本当に抜擢のように群馬県副知事に来られ、そして知事から本当に蝶よ花よと育てられる中で、やはり良くも悪くも勘違いをしてしまう部分というのは出てきたかもしれない、ということは想像できます。

ですから、まずその適任者云々という前に、知事がまた、この人が最高だという方を連れてきて、また蝶よ花よとしていけば、また同じことが起きるかもしれない、また全員協議会を開くような事態が起きるかもしれないという心配があり、やはりそれはもう宇留賀さんの問題ではなくて、知事の姿勢の問題だと思っています。

今やっているのは、そういった適任者のこともありますけれども、国から派遣された方に対する育て方も含めて、先ほど知事も県庁職員と仲良くしなさいと言われたということですが、やはりいろいろな声は知事にも届いているはずですから、そういった厳しい声も含めて、今後受け止められるような姿勢をいただきたいですし、やはり能力面としても、確かに知事の掲げるタスクを徹底的にピシバシこなして、どんどん広げていくという能力はすごい方だということは、もうよく分かりました。

ただ、副知事という立場というのは今言ったとおり、やはり議会とか県庁の皆さんとしっかり信頼関係を持って仕事ができる能力というものを、むしろ知事は猪突猛進型ですごく攻撃力がなくて、それが新しい施策を推進するすばらしさでもあり同時に、やはりその知事がほれ込んで、一緒に暴走してしまう副知事をつくってしまうというのは、これから非常にリスクが高いと思っていますし、今現状そういうリスクが見えてきたところで、議会からは、ちょっと待とうという議論になっていると思います。

是非とも省庁から派遣していただく際には、知事がほれ込むことも大事なのですが、国にも議会にも県庁にもしっかりバランス感覚よく見渡せるような人材を御所望してほしいと思いますし、そのためには私どもの責任はあると思いますけれども、やはりそのような形で、今後新しい副知事を迎えるときには、是非そういう冷静な人選をしていただきたいと思いますが、この辺りの考えをお聞かせください。

●山本知事

いろいろ率直な御意見しっかり受けとめたいと思います。

もし宇留賀さんが1年の任期延長が認められれば、その中で今、後藤議員が言われた、これからもちょっと群馬県の文化とか職員の気持ちに寄り添えるようなスタイルに、しっかりと改善すべきところは改善してもらおうように言いますし、そのあと例えば省庁から引っ張ってくる人についても、後藤議員が今言われた視点。やはり副知事というのは、知事のやりたいことをサポートしてくれる人なので、やはり私を助けられる能力だけではなく、今言われたように、県議会とのコミュニケーションとか県庁職員の気持ちとかも考えられるというところもよく見ながら、しっかり良い人を見つけられるように苦労したいと思います。

最後に、議員が言われた、2人で暴走して、というのは、暴走しているわけではないですけど、なかなか鋭いことを言われるなど。私はまっすぐしか行かないので、宇留賀さんも結構まっすぐなので2人だけだったら大変なのですが、そのために津久井副知事がいて、やはり必ずその2人に入ってもらうのはペアリングの妙のようなところがあり、バンバン行こうとする2人を、津久井副知事がそう

は言っても県庁の事情はこうだからと、ある程度うまくブレーキを掛けてくれて、一応バランスの中でやっていることは申し上げたいと思います。今言われたことは本当に頭に置いて、これからの県政運営に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

○水野（俊）議員（公明党）

私からも何点か伺いたいと思います。

かなり率直な意見交換をさせていただき、また知事からも本当に様々に詳細な御説明をいただきました。今日これから伺いたいことは大体お話尽くしているところもあるかと思いますが、ちょっと聞き方を変えているぐらいかと思いますが、それでも是非、知事自らの言葉で説明いただける貴重な機会でもあるので、御説明いただければ有り難いと思っています。

まず、すごく素朴に、1年前、8月8日だったと思いますが、知事が2期目当選された後に、我々議会として、副知事の人事案件を、臨時会で承認をした。

ところが、なぜまたその1年後に、こういうふう議決に臨まなくてはいけないのか、どうしてこういう状況になったのだろうか、何かすごく不思議な感じを抱いています。

知事の方から、改めてご説明いただければ有り難いと思います。

●山本知事

今、水野議員が言われたように、昨年8月にほぼ全会一致みたいな形で、大勢の皆さんの御了解をいただいて、同意人事を通していただきました。

ある意味4年間、一応やれる素地ができたのですけれども、先程井下議員との質疑の中でも言わせていただいたのですが、かなり異例の長さにはなっていたと。経済産業省がどこまで宇留賀さんを貸してくれるかということは、分からなかったけれど、当然4年間というのは難しかったのだと思うのです。

だから1年なのか、もうちょっとなのか分からないのですけれども、とりあえずしてもらわなくてはいけないので、しっかり再任していただいた上だと思っていたので、当初はどこかで、もう1回言いますけれども、やはりお返ししなくてはいけないとと思っていたものですから、それが先ほどお答えしたように、宇留賀さんがいろいろ考え抜いた上で、1月ぐらいになって、辞めても続けたいと言ってくれたので、そこでそのまま続けるという選択肢はなくなって、いかなる形でも、さっき言ったようにみんな話したのですけれど、議決をしなければ1回辞めた人をそのままというわけにはいかないので、もう一度このような形になってしまったということです。

ですから、やはり8月の時点で、今思い返してみると、自民党の執行部とちょっと話をしたときも、少しその辺は井下議員からヒントを出していただいていたので、ここで一応再任はしたけれども、ずっとということは、なかなか大変かもしれないから、そういうところをちょっと頭に置きながらと言ってくれたので、でもその時は帰すはずだからと、その時にちょっと先のことまでよく考えながら、相談しておけばよかったと思っています。こういう形で2度も議決を求めるような形になったことは、私もいろいろありますけど、見方も甘かったし、大変配慮が足りなかったところなので、お詫びを申し上げたいと思います。

○水野（俊）議員

率直にお答えいただけるので、やはりこのやりとりは貴重だなと感じます。

素朴に考えて、当時やはりそういう情報を出していただいた方がよかった、もしくは結果論から見れば、やはり後出とか、いろんなものを決めた後でまた追加の情報が出てくると見えることが多々あります。そういう意味でも、少し信頼関係にひびが入るようなことになりかねないということを、今回非常に学ばせていただいた気がします。

その上で、知事からは二元代表制のあり方についても改めて認識を深くしたということの言及もあり、関係性を再構築するという話がありました。

具体的に、何か今後そのような、改めて議会との距離感を構築するという取組について、どのような考えがありますか。

●山本知事

最大会派という言葉を使うと御無礼かもしれませんが、例えば自民党とは、定例的に一応執行部と懇談会をやっているのですけれども、例えばこれから頻度をきちっと決めて、もう本当の意味で定例でいろんな会議や意見交換をやるとか、そのような定例の懇談だけではなく、何か特別な要望があったときにつなげる仕組みは、一応提案させていただいているので、これは他の会派についても、今日は金子議員や後藤議員に叱られたので、水野議員にもよく分かっていただけだと思いますけれども、私は実は結構各会派の要望は真剣に受けていまして、1時間本気で聞いて、実際に県政に反映されているところはあるのです。本当に、そのあとすぐ関係部局に話して、検討させているのですけれども、やはりほかの会派とも、もうちょっと定例をやるとか、要望は常に受けていますけれど、もうちょっと体制を強化してやるとか、あるいは、もう1回言いますけれども、いろいろな要望を直接つなげる仕組みをつくるとか、もうちょっと具体的に相談させていただいて、システムとしてある程度立ち上げられたらいいと思っています。

○水野（俊）議員

今、お話がありましたように、これまでの県政運営を拝見させていただいて、本当に議会の中での様々な立場の方からの御意見も、本当に真摯に受け止めていただいている姿は感じています。そういう意味では、本当に山本県政が積極的に社会課題を解決していこうと、そしてそれをモデルにして全国に発信していくことで、やはり群馬県のポテンシャルを高くしていきたいという好循環をねらっているということは、非常に感じています。

その上で、そのリーダーシップの強さが、そういうものを前進させていく大きなエネルギーになっているのだと思うのですけれども、やはり裏腹にどちらかというと、トップダウンで物事が決まっているように見えますので、トップダウンがやはり強く出ているという印象を受けています。

その意味で、どちらかというと、議会との関係もきちっと構築していただくことは有り難いことですが、もう一方で、やはり県政の組織の運営という意味でも、しっかりその裏でボトムアップを並立していく、やはりそのバランスを取っていただくということが、心理的な安全性みたいなものを担保していくのだらうと思っており、多様な意見が県庁職員の皆さんからも、自由に出てくるような空気も、やはりもう一方で必要なのではないかという印象も受けています。

知事が御自身の振る舞いや、また金子議員に対してお答えされたように、副知事に対しても様々な御指導されるというお話がありましたが、一方で組織の在りようとしての県政運営にも、バージョンアップを考えてもらいたいという気持ちがありますが、いかがでしょうか。

●山本知事

まず水野議員の御指摘は真摯に受け止めたいと思います。

まだまだ足りないところもあるし、私自身が非常に欠点の多い人間ではあるのですけれども、実は私はトップダウンではないと思っていて、実はかなり各部局の意見を聞いているつもりなのです。決して言い訳するつもりはなく、水野議員の御指摘を受けて、更に進化させていかなければならないのですけれども、例えば予算協議は何十時間もやるのです。1つの部局が出してきた事例で、場合によっては3回ぐらいやるので3時間ぐらいやるのですけれども、その時にやはり担当部局の部長や課長の意見を聞きながら議論を闘わせて、その中から結論を得ているので、それでも足りないところがあるので水野議員のアドバイスをしっかり受けて、更にちゃんと心掛けたい。担当部局に何も言わないで、一気に発表するというものもないので、宇留賀さんの件ではいろいろと御指摘もあったので改善していきたいと思いますが、私にとってはやはり県職員の人達は本当の同志なので、そもそもフラットな人間なので、あんまりポストとか関係ない、これが良くないのだと思うのですけれども、課長も部長も局長も関係

ないので、6歳児的発想を変えなくてはいけないと思うのですけれど、水野議員の言葉もあったので、仕組みとしても、もうちょっとボトムアップが更にできるようにしたいと思います。

ちなみに若手職員のプレゼンというものを、前の知事のと時からやっているのですけれど、1時間だったものを7時間ぐらいやっています、これも若手職員と結構ガンガン議論しているので、こういう良いところ、水野議員のアドバイスもいただきながら伸ばしていければと思います。御指摘ありがとうございます。

○水野（俊）議員

まさに知事の姿勢に関しての議論ではなくて、やはり部下の皆さんの付度が明確に働くのではないかと。ですので、議会に対しての情報提供のタイミングなどが、知事の記者会見を待って、発表されてから、後にメールでくることが、各部長の御判断でされているようにも見受けられますので、ちょっとそういったところも含めて、コミュニケーションが円滑になっていくと有り難いと感じたところです。

○酒井議員（日本共産党）

こういう形でオープンな形で議論できるのは良いと思うのですけれど、ただ県民はこの問題では非常に不信感といいますか不快感を持っているということは自覚をしていただきたいと思います。

私から1点、新聞報道があって、びっくりしたのですけれども、この任期1年の妥協案はあり得ないというのが第一印象です。

この問題で共産党を除く各会派にこの案を示したと言いますけれども、やはり知事が問題の本質を分かってないと。だからこういう奇妙な提案が出せるのだと思います。

先ほども議論がありましたけれども、地方自治法第163条「副知事及び副市町村長の任期は4年とする。ただし、普通地方公共団体の長は任期中においてもこれを解職することができる」と、こうあります。

これは古い行政実例ですけれども、助役、現行法では副市町村長ですが、この助役を選任する場合、村長の任期期限をもって助役の任期期限とすることは、助役の同意があっても違法であると、こういう行政実例があります。これは副知事にも適用できるのではないかと考えます。

国からの副知事派遣、2年交代が慣例になっていたと。これ自体どうかと思いますけれども、その場合でも形式上、任期4年の途中で辞任という形をとっていました。その任命に議会が同意する際に、2年という条件はつけていなかった。慣例になっていたわけです。

今回の任期1年ということは、覚書とか協定を結ぶとか言いますが、これはもう地方自治法を最も遵守すべき立場の知事が、この大原則を踏みにじることにならないか大変懸念するのですが、いかがでしょうか。

●山本知事

酒井県議の御意見は、御意見としてしっかり受け止めておきたいと思います。

○酒井議員

この行政実例にも違反していると思うのですが、いかがでしょうか。

●山本知事

今、先ほどから説明しているように、今言ったような形で登用することはできると、私は思っています。

○酒井議員

実際に、他の自治体でこうした条件を付けて任命した例というのはあるのでしょうか。

●山本知事

それはちょっと調べてみないと分かりません。

○酒井議員

執行部どうですか。

●高橋人事課長

事務方の理解を少し申し上げたいと思います。

まず酒井議員の言われた行政実例、昭和27年の旧自治省が示した行政実例だと思うのですが、その趣旨は、任期を首長と副首長で同じものに変更することができるか、ということに対して、否という答えだと思います。

今回、知事が御説明された内容は、事務方としては、任期はあくまで4年、これは地方自治法で定めたものですので、任期は4年、その中で、それを前提として、任期途中で解職なり退職なりの手続きをする。そのような話だと思っており、法律上の任期を変えるということを言われているのではない、と事務方は思っています。

○酒井議員

いや、これはやはり法をねじ曲げるものだと言わざるを得ないだろうと思います。

副知事というのは、やはり秘書とは違って、議会の同意が必要な特別職なわけです。

原則この4年ということは、しっかりと守る必要があります、こういう1年なり半年なり、そういう期限を区切ってということは、まさにその法の趣旨を踏みにじる、まさに議会、そういう副知事という職を私物化するものだと思います。

もうこれは自民党や他の会派もそうですけれども、もしこの妥協案である1年ということを受け入れているのであれば、議会全体の見識が問われることになると言わざるを得ません。

いずれにしても、日本共産党は、宇留賀氏の副知事再任の同意案件には、反対の立場であるということを表示して、私の質問を終わりたいと思います。

○宮崎議員（群馬維新の会）

吹けば飛ぶような1人会派ですけれども、多くの支持者の方もいるという背景の中で、一言発言させていただければと思います。

まず、この人事の問題、しかも、例えばその候補となっている方の資質だとか、あるいはその運び方とか、こういったことで、知事執行部と議会が対立するのは、正直私は大変残念に思っています。

政策論争であれば、県民生活に直結するような話であればいいのですけれども、この方がふさわしいのかふさわしくないのかということが、テレビが入った中、県民にこれだけ明け透けに見られる中で議論しなければいけないということは率直に言って残念です。これは双方にも責任があるのではないかと感じております。

この件については、私も市民の方から、なぜこんなことでやっているのだと、我々の生活に関係ないのではないかと、もっと県民会館の話をしろとか、そういう批判をいただくのです。

ただ、こうなってしまったことの原因はいろいろあると思っています。

私自身は、知事のスタッフなのだから、一番使いやすい人を使えばいいのではないかと思っています。ただ、やはりこれだけ反発の声が出るということも、原因があるということだと思うのです。これまでいろいろな話もありましたけれども、やはり1つはコミュニケーションの問題が上がっており、私は先ほど、知事が使いやすい人を使えばいいと申し上げた。知事があの人だから、すばらしい人なのと言われるから、そうなのですね。であればよろしいのではないですかと、こういう話なのです。

ですが、宇留賀さんがどういう人か全く存じ上げないのです。私もこの県議会に当選させていただいて1年経ちました。宇留賀さんとは、基本的に一言も話したことがありません。今日は本当に暑いので

すねとか、たまには実家に帰る時間もあるのですか、お忙しいでしょうといった話をしたこともないです。そういった方が、恐らくこの中にも少なくとも何人かいるのではないかと。絶対宇留賀さん駄目だという人は、そんなにいないと思います。

ただ、はっきり言って、知事がすばらしい人だと言うから、すばらしいのだろう。知事が、この人はこういう仕事をしたのだからと言ったら、そういう仕事をしたのだろう。高崎市長がこう言ったから、そうなのだろうと思うだけで、宇留賀さん本人から、自分は県政について、こういう意見があるのだとか、こういう情熱を持って取り組んでいるのだとか、あるいは皆さんの意見を聞きたいとか。やはりそういう関係性が、もしかしたら例えば最大会派の幹事長、その他幹部の方とあるのかもかもしれないけれども、それだけではなく、新人の議員の方々とか若手の方々も含めて、知事とは何度か話したことがあるのに副知事とは1度もない。

津久井副知事は、部長とか課長をしていて、今日は話さなくても、気心は知れている人もいるでしょうけれども、宇留賀さんは経済産業省から来た人で、それまで何にもないままに突然にそういう話になって、知事は御本人から直接働きかけはするなということ言われたそうです。

それはそれが正しいと思うけれど、それ以前の段階できちっと宇留賀さんが、ある意味コミュニケーションがとれていれば、こういうことになったときに、いろんな議員の方から、宇留賀さん大丈夫かい、本心はどうなんだいとか、そういう話も多分できたのかもしれない。

○須藤議長

宮崎議員、質問は簡潔明瞭に。

○宮崎議員

ですから、もし再任を議会が認めるということになれば、そのような点についても、本人も配慮を願うように、知事からもお伝えいただきたいし、また、あるいは1年後、別の方が副知事になったときでも、そういう姿勢も持っていただければいいのではないかと考えています。御見解をお願いします。

●山本知事

今、宮崎議員が言われたことは、実はとても大事なことだと思っているので、万が一、再任を1年間認められたときには、そこは十分宇留賀さんにも心掛けてもらうように、私の方から話したいと思います。

○須藤議長

他にございますか。

ないようですので、以上で質疑を終了いたします。

◎閉会

○須藤議長

閉会にあたりまして、一言申し上げます。

知事及び執行部の皆様方におかれましては、この全員協議会に御出席いただきまして、誠にありがとうございました。

先ほど来、二代表制という言葉が出ていますけれども、引き続き、議会との関係を密にしながら、県民福祉の向上に向け、一層の御尽力をどうぞお願い申し上げます。

そして、議員の皆様におかれましては、特別委員会の実施日に重ねての全員協議会に御出席をいただきまして、誠にありがとうございました。

本日の知事からの説明、また会派を代表しての議員の皆さんからの質疑、また答弁を踏まえまして、本件につきまして、今後御検討いただきたいと存じます。

以上をもちまして、全員協議会を閉会いたします。御協力ありがとうございました。